

先駆的DMOの選定に向けて

インバウンド地方誘客を支えるDMO（案）

（再掲）第1回観光地域づくり法人の機能強化に関する有識者会議「資料4」

①インバウンド地方誘客を支えるDMOの早期育成

・観光立国推進基本計画（令和5年3月31日閣議決定）に位置づけられている「世界的なDMO」の候補となる「先駆的DMO」を、インバウンド誘客の強化やオーバーツーリズム（※）の未然防止等に取り組むDMOとして捉え、当該DMOに求められる機能を検討してはいかかか。

インバウンド※地方誘客
を支えるDMO



先駆的DMO

※日本へのインバウンド、つまり訪日外国人旅行者のこと

【観光立国推進基本計画（令和5年3月閣議決定）より抜粋（P21）】

「世界的なDMO」の候補となる「先駆的DMO」を令和7年度時点で10法人となるよう順次選定・見直し、戦略的な支援を行う。

[参考]令和6年7月現在、先駆的DMOは3法人（令和5年3月に選定）

- ・一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー【マネジメントエリア】和歌山県田辺市
- ・公益社団法人京都市観光協会【マネジメントエリア】京都府京都市
- ・一般社団法人下呂温泉観光協会【マネジメントエリア】岐阜県下呂市

- 国内外の観光需要は急速に回復し多くの観光地が賑わいを取り戻しているが、都市部を中心とした一部地域への偏在傾向も見られ、観光客が集中する一部の地域や時間帯等によっては、過度の混雑やマナー違反による地域住民の生活への影響や、旅行者の満足度の低下への懸念も生じている状況であり、適切な対処が必要。
- 地方部への誘客をより一層強力に推進し、全国津々浦々あまねく観光客を呼び込んで行く。
- 観光客の受け入れと住民の生活の質の確保を両立しつつ、持続可能な観光地域づくりを実現するためには、地域自身があるべき姿を描いて、地域の実情に応じた具体策を講じることが有効であり、国としてこうした取組に対し総合的な支援を行う。

先駆的DMO 選定スケジュール

令和6年度選定スケジュール

令和6年7月

令和6年度先駆的DMOの選定における「評価の考え方・視点」の決定

公募開始

観光庁審査

有識者審査会（事前審査）

※第5回有識者会議を想定（最終審査）

観光庁選定

事業実施

「評価の考え方・視点」【改訂版】

既先駆的DMOの再評価

令和7年度選定

令和7年夏頃

令和6年度選定・令和4年度選定の先駆的DMOモデル実証を踏まえ、検証・見直し

インバウンド地方誘客を支えるDMO（先駆的DMO）

【国による評価の考え方・視点】

- ・観光地経営戦略に次の4つの方針を盛り込んでいること
 - － 観光による受益を広く地域にいきわたらせる方針
 - － 観光分野において地域への新たな活力（資金、人材、企業等）を創り出す方針
 - － 地域の観光資源（自然、文化等）の保全・活用の方針
 - － 観光危機管理の方針（インバウンドへの対応は必須）
- ・戦略、それに沿った取組の実施にあたり、KGI・KSF・KPIが適切に設定されていること（インバウンドに係る指標は必須）
- ・地域調達率、域内への波及効果（額）、地域観光GDPの目標値は、観光地経営戦略と整合した設定となっていること
- ・地域調達率、域内への波及効果（額）、地域観光GDPの目標値を達成していること
- ・CRM又はDMPを導入しており、それらから得られたデータを分析し、戦略に反映していること

インバウンド地方誘客を支えるDMO（先駆的DMO）

【国による評価の考え方・視点】

- ・インバウンドのニーズを的確に捉え、高度な受入環境整備を実施していること
（高度な受入環境整備：英語対応（案内標識、自動翻訳機等）、トイレ洋式化、キャッシュレス、通信環境の整備以外のもの。多言語表記についてはネイティブチェックの実施。）
- ・基礎的受入環境整備率の目標値を達成していること
- ・観光地における二次交通確保のために、主体的に取り組んでいること（地域関係者への働きかけ等）
- ・インバウンド向けガイド人材を確保（DMO職員として採用等）していること
- ・インバウンド向けガイド付きツアー商品を提供していること

インバウンド地方誘客を支えるDMO（先駆的DMO）

【国による評価の考え方・視点】

- ・地域の実情に応じて一次産業、二次産業、文化財、国立公園、道の駅等の関係者を巻き込んでいくこと
- ・観光地経営戦略の策定時において、多様な関係者から意見収集・反映を行っていること
- ・異なる区分のDMOとの連携体制を構築していること
- ・戦略もしくは事業計画等において多様な関係者との役割分担が明示されていること
- ・住民を含めた多様な関係者への説明責任を果たしていること

インバウンド地方誘客を支えるDMO（先駆的DMO）

【国による評価の考え方・視点】

- ・職員の年齢構成などを勘案し、持続的な組織として必要な人材を確保していること（英語対応可能な職員も含む）
- ・CMOが専従で最低一名存在していること
- ・DMO職員の満足度を把握し、職場環境の改善に取り組んでいること
- ・DMO組織内で知識の共有を図り、組織力の向上につなげていること
- ・組織ガバナンスの強化に取り組んでいること

インバウンド地方誘客を支えるDMO（先駆的DMO）

【国による評価の考え方・視点】

- ・自主財源確保に向けた取組計画を策定し、その目標値を達成していること
- ・予算計画は、観光地経営戦略（中長期）との整合が図られていること
- ・観光地経営戦略に基づき実施する事業費、運営費の財源を確保していること、確保していない場合にあっては、確保する可能性が高いこと